

2020年8月23日
聖霊降臨後第12主日
東京聖三一教会

イザヤ 51:1-6
ローマ 11:33-36
マタイ 16:13-20

あなたがたはわたしを何者だと言うのか

司祭 シモン 林永寅

キリスト教の信仰者は「自分の信仰を告白する者」です。この告白とは、神様とイエス様について他人の話聞いて、それを繰り返し話すことではありません。また、理性的で論理的な思考によって下した結論を言うことでもありません。それは、祈りと黙想、聖書と信仰的な実践を通して得た自分の経験、つまり各々が神様に会った体験を告白することです。今日ご一緒に読んだ福音書のイエス様の質問、「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」というのがまさにこれを問いかけているのです。

ところで、私は今日の福音書を読んで黙想をしていると、一つ疑問が浮び上がりました。それは、「なぜこの時、ここでイエス様はこのような質問をなさったのか」ということです。皆さんもご存知のように、弟子たちはイエス様を主として認めたから、ついていったのではないのでしょうか。それにペトロはすでに多くの人を癒してくださるイエス様を何度も見て、イエス様の神的な能力に頼って湖の上を歩こうともしました。そのようなことを考えると、ペトロを含めて弟子たちは、イエス様がメシアであると思っていたはずですが、それでもイエス様はそれだけでは足りないとお考えになったのでしょうか。

聖書は、今日の出来事が起きた場所を「フィリピのカイサリア」と冒頭で明かしています。「フィリピのカイサリア」は、ローマ皇帝からヘロデに与えられた地としてイスラエルの北の方ヘルモン山の麓にある都市です。ヘロデは、ここにローマ皇帝アウグストゥスを記念するために神殿を作り、皇帝の像を作りました。また「フィリピのカイサリア」には、ギリシア神話に登場する半人半獣の姿をした牧神であるパン(Pan)を祀る神殿もありました。一言でいえば、「フィリピのカイサリア」は、偶像崇拜が蔓延し、信仰的にも混乱しているところでした。私は、まさにこのようなところであったから、イエス様が弟子たちにご自分について質問なさったのかもしれないと思います。つまり、「混乱した現実の中でも主のみを信じ、頼りながら生きて行かなければならない」ということを教えてくださるためにこの質問をなさったのです。

また、イエス様の質問と弟子たちの答えを見てみましょう。イエス様はまず、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」と尋ねられました。弟子たちはこのように答えました。

「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」(14)

ヘロデはイエス様の噂を聞いて「死者の中から生き返った洗礼者ヨハネである」と思いました。「五つのパンと二匹の魚の奇跡」によって満腹した人々は、イエス様を預言者であると思ったでしょう。このように、人々はそれぞれ自分の立場でイエス様を判断しました。しかし彼らが望み、また思っていたイエス様はどういう方でしょうか？それを聞こうとなさったイエス様はこのように質問を変えました。

「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」(15)

この問いかけは他の人々の考えではなく、弟子たち各々の考えが重要であるという意味でしょう。しかしまた一方で自分の人生の中に本当に必要なのは何かを問うものでもあります。イエス様のこの問いかけにペトロはこのよ

うに答えました。

「あなたはメシア、生ける神の子です。」(16)

これは答えでありながら同時に告白であります。それではペトロのこの告白には今日の私たちにはどんな意味があるでしょうか。そして、コロナ・パンデミックのゆえに教会に来られず、自粛している今日の私たちにとっては、ペトロの告白は何を意味するのでしょうか？

イエス様の当時、多くのイスラエル民はメシアを待っていました。けれども、彼らが望んでいたメシア像は多様でした。ローマの植民地状態から解放してくれる政治的な指導者を待っている人もいれば、食べ物を与えてくれる預言者を待っている人もいたでしょうし、自分の病気を癒してくれる預言者を待っている人もいました。このようなすべての期待と願いは大切なものです。しかし、彼らは実際に大事なことを見逃していたのかもしれませんが。ローマから解放されたとしても、自ら国を守る意志と努力がなければ、再び植民地になってしまいます。癒しを望みますが、癒されたといっても永遠に生きるわけではありません。食べ物を欲しがりますが、「人はパンだけで生きる者ではない」ということを悟らなければ、意味のない人生になることもあります。したがって、信仰者にとって何より重要なことは「神様を信じ、頼りながら生きていくこと」であり、「神様は私たちと共におられる」という信仰をもって生きていくことです。思い浮かべてください。イエス様のご誕生を知らせるメッセージが「インマヌエル」、「神は我々と共におられる」というメッセージだったということ。

またペトロの告白をもう少し見てみましょう。ペトロはイエス様に「あなたはメシア、生ける神の子」と告白しました。この「生ける」という言葉は、ただ「息をして動いている」というだけ意味することではありません。これは、「今、私と共におられる方」という意味であり、「私を生かしてくださる方」という意味です。それは、混乱した世の中でもイエス様が自分の人生の中心であることを告白することです。そしてこの告白は自分のアイデンティティを表すものであり、怖く、混乱が起きても揺らぐ、信仰者として堂々と生きていく、という意味でもあります。従って、イエス様の問いかけとペトロの答えは、今日を生きる私たちにも大きな意味があります。たとえコロナ・パンデミックによって不安で、自由を制限されて退屈に過ごしていても、神様はいつも私たちと共におられて、ついには私たちを自由にしてくださいという信仰になるからです。

私はこう思うのです。「私たちが『神様のうちに自分の価値ある人生』を生きること」、それを助けるためにイエス様が来られたのだと。イエス様が行われた数多くの奇跡がまさにそのようなメッセージを持っています。口の利けない人には自分の意見が言えるように、目の見えない人には自分の目で見て判断できるように、耳の聞こえない人には自分の耳で聞いて判断できるように、中風に患っている人には自分の両足で自分の人生を歩めるようにしてくださいのがまさにそれです。それは、癒しの出来事であり、「神様のうちに自分の価値ある人生」を堂々と生きるように助けてくださった回復の出来事なのです。この癒しと回復の出来事を確信する信仰は、私たちにも癒しと回復の出来事を起こしてくれるでしょう。

今日一緒に読んだローマ書にはこのように記されています。

「すべてのものは、神様から出て、神様によって保たれ、神様に向かっているのです。」(ローマ 11:3)

このみ言葉は、私たちの人生は神様からいただいたものであり、私たちは神様のうちに生きているという意味です。したがって、このみ言葉は、信仰者のアイデンティティを示してくれるものであり、「神様のうちに共にする人生がどれほど大切なのか」を示してくれるみ言葉でもあります。

今日一緒に読んだ福音書のイエス様がペトロにおっしゃったみ言葉も私たちのアイデンティティと希望と恵みを教えてくれます。イエス様はペトロにこのようにおっしゃいました。

「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。」(18)。

このみ言葉は、ペトロが教会の礎であるという意味です。しかし、このみ言葉はペトロだけでなく、すべての信仰者のためのみ言葉でもあります。ペトロのように、私たち一人一人が信仰という岩の上に建てられた教会であるということです。この岩が心強く頼れるものであればあるほど、私たちに与えられる恵みも心強いものになるでしょう。今日一緒に読んだイザヤ書に記されている「あなたたちが切り出されてきた元の岩／掘り出された岩穴に目を注げ。」(イザヤ51:1)というみ言葉もそれを教えてくれます。ですから、たとえコロナ・パンデミックゆえに礼拝に出席できなかったとしても、祈りと聖書を読むことを通してこれまでの信仰生活を振り返り、ペトロのように堅固な信仰を新たに告白する機会をお持ちください。そうすれば、きっと恵みと共に現実を乗り越えていく力と勇気をも得られるでしょう。

この一週、堅固な信仰の告白を通して、神様の豊かな恵みをお受けになり、天の国の鍵が与えられますように心からお祈りいたします。